



平成29年7月21日

(会 派 名) 市民グループ未来の会  
(会派代表者) 大前 寛乗 殿

(会 派 名) 市民グループ未来の会  
(氏 名) 東原 章

調査研究, 要請・陳情実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 期 間 平成29年7月10日(月曜日) から  
平成29年7月12日(水曜日) まで
2. 視 察 先 北海道網走市, 北海道釧路市  
(要請・陳情)
3. 参加議員名 大前寛乗, 前川昌也, 大藤匡文, 植條敬介, 東原 章  
鳥飼年幸, 若谷修治, 村井孝彦
4. 調査研究, 要請・陳情の概要

別紙のとおり

※ 要請・陳情先は相手先の所属・職名・氏名を記入して下さい。

## 行政視察

平成29年7月10日(月) 15時～

北海道網走市：網走スポーツトレーニングフィールド

視察項目：スポーツ合宿の取り組みについて

### 網走市の概要

明治5年、北見国網走郡の呼称が定まり、網走村の名が与えられました。そして北見4郡の中心地として開拓使根室支庁網走出張所の所在地となり、明治13年、網走出張所は郡役所となり、同30年その管轄区域をもって網走支庁が設置されました。

明治23年の釧路鉄道、翌24年の中央道路の開通、さらに大正元年網走本線、昭和6年釧網線、同11年湧網線の鉄道が開通し、一方、大正8年には築港工事が開始され、ここに陸海交通の要衝を占め、オホーツク海の大漁田を擁する水産業を初めとして農林・畜産の各産業、及びそれらの加工業が興り、それに伴って各官公庁や事業所が集中され、文化施設も着々整備されるに至って、昭和22年2月11日市制を施行しました。

その後、交通基盤の拡充による交流の活発化と積極的な都市施設の整備などにより、網走支庁管内開発の先駆にふさわしい発展をとげ、平成6年には当時の近隣4市町とともに、オホーツク圏における中核都市として発展を続けています。

主要産業は、畑作と酪農を主体とする農業とオホーツク海及び湖沼を対象とする漁業、そしてこれらを原料とする農水産加工業とともに、観光業が柱となっています。

現在は、平成20年度からスタートした「網走市総合計画」の基本理念「人間尊重のまちづくり」に沿って、共生型地域社会づくりを目指した「支え合い、安心して暮らせるまち」多様な活動に対応した居住環境づくりを目指した「快適で調和のとれたまち」経済的な自立性の向上を目指した「にぎわいと活力にあふれるまち」みずからが学べる場の創出を目指した「みずから学び、ふれあいを大切にするまち」広域的な連携の中での効率的・効果的な行財政運営を目指した「みんなで知恵を出し、いっしょにつくるまち」をキーワードに、市民と行政の協働によるまちづくりを進めています。

## 視察目的

スポーツ合宿地としての実績のある網走市は、北海道を代表するスポーツ合宿地として、ラグビー、陸上、バイアスロン、野球、スキー、など毎年約1700人のトップアスリートが訪れるまちであり、約25年前、ソウル五輪出場チームの直前合宿の受け入れを機に土台づくりが始まり、付加価値を高めて網走市がスポーツ合宿地として高く評価されていること。

そして、こうしたスポーツ合宿の取り組みによる経済効果は、年5億円以上にのぼっている。

東京オリンピックの事前合宿に向けて府中湖カヌー競技場についても取り組んでいることから合宿地の実績がある網走市を視察先に選んだ。

## 視察項目について説明

### スポーツ合宿の取り組みについて

### 施設等の概要

- ・ 網走スポーツトレーニングフィールドの開設は平成2年6月共用開始
- ・ 事業費 36億円(起債27.5億円、道補助金2億円、一般財源6.5億円)
- ・ 用地面積 38.7ha(東京ドーム約9個分)
- ・ 施設概要 ラグビー場1面、サッカー場2面、多目的広場3面

(計6面、ラグビー、サッカーで利用可)

テニスコート16面、アーチェリー場14的、ゲートボール場4面

ゴーカート、おもしろ自転車コース、パークゴルフ場

幼児公園・花の広場

センターハウス1棟、駐車場3か所

- ・ 管理運営 平成20年度から指定管理者制度を導入 13,177千円  
芝生管理は別途委託 41,409千円  
使用料収入 6,421千円

### ・ 前年度の利用状況等

延利用者数	平成24年度	57,272名
	平成25年度	60,763名
	平成26年度	59,612名
	平成27年度	54,416名
	平成28年度	64,075名

- ・担当部課名 社会教育部スポーツ課

#### 合宿で利用される主なスポーツ施設

- ・網走スポーツトレーニングフィールド
- ・網走総合体育館
- ・網走陸上競技場
- ・網走市民健康プール・西地域プール
- ・ランニングコース

#### 実績

- ・平成28年度 実人員1,784人 延べ16,505泊  
経済効果 578,800千円
- ・誘致活動 各種大会に出向き、合宿誘致活動を実施
- ・平成28年度誘致活動実績
  - 5月 東日本実業団陸上競技選手権大会
  - 5月 ゴールデンゲームズ in 延岡
  - 9月 全日本陸上競技選手権大会
  - 11月 東日本実業団対抗駅伝大会
  - 2月 ジャパンラクビートップリーグ決勝

#### 予算

- ・平成28年度 9,500千円(網走市補助金)

#### 受入内容

- ・航空券・宿泊・レンタカーの斡旋、仲介
- ・トレーニング施設のスケジュール調整
- ・女満別空港～ホテル 送迎の手配および経費負担
- ・ホテル～練習会場 送迎の手配および経費負担
- ・練習会場使用料の免除
- ・地場産品の差し入れ

#### 今年のイベント等

- ・7月13日 2017 ホクレンディスタンスチャレンジ網走大会
- ・7月22日 2017 オホーツクラクビーフェスティバル in 網走

## 平成28年度ラグビー合宿の実績

- 社会人
- ・ホンダ
  - ・コカ・コーラ
  - ・神戸製鋼
  - ・東芝
  - ・リコー
  - ・トヨタ
  - ・サントリー
  - ・7人制日本代表
  - ・日本ラグビーフットボール協会(レフリー)

## 大学

- ・法政大学
- ・東海大学
- ・山梨学院大学
- ・慶応大学
- ・早稲田大学
- ・北海道科学大学

上記の実業団および大学の利用者合計、908名が合宿に参加した。

## 主な質疑

(質) これだけ莫大な費用を投入して、また後の維持費を考えると成り立つのか？

(答) 芝管理費が4,000万円、委託料2,000万円を含めて6,000万円、半年間かかっているが、順調にしているおかげで宿泊施設に支払われるお金が相当な額になっている。また、網走はラクビーの合宿の町だとも言っていたらいい。おかげさまで経済効果等、それ以上の効果があったと認識している。

(質) 有名企業が来てくれているが今後、企業を繋ぎとめる何かをかんがえているのか？

(答) 人材育成とスペシャリストを育て20年以上、毎年合宿地として使用していただいていますし、信頼関係で繋がっているので、このまま続けていきたい。

芝を3年前に張り替えて、現在は神戸製鋼が使っています。昨年日本代表もここを使っていた。

(質) 北海道と言えばウィンタースポーツのイメージが強いのだが、今後ウィンタースポーツに取り組む考えはないのか？

(答) ファミリーゲレンデ、クロスカントリーコース、スケートリンク等あるが近くで同じ様なコースを作る為、網走に魅力が有るか、無いか、また交通費を60,000円かけてでも来るかどうかなのだが、やはり多額の交通費をかけてまでは来ないので考えていない。

## 所感

東京オリンピック、カヌー競技合宿誘致活動を進めている本市にとって本当に参考となる視察であったと思います。それは、選手目線で考えていること。多額の費用を施設整備費にかけているが、それ以上の経済効果があり目先の利益だけを考えていない。

また、人との繋がりを大切にしていることが20年以上に及ぶ合宿地として選ばれ、しかも有名企業ばかりである。

本市のカヌー競技場も合宿させて頂きたいと言わせるだけの人材育成、環境整備、施設整備、宿泊施設等、充実しなければならない。

平成 29 年 7 月 11 日 (火)

## 釧路市観光振興について

報告者 市民グループ未来の会  
東原 章

釧路市は、取り組むべき成長産業として特に「観光」に力を入れるため平成 19 年 3 月に「釧路市観光振興ビジョン」を策定した。10 年が経過した今年、「第二期、釧路市観光振興ビジョン」として、時代の変化、社会経済環境の変化等を踏まえ、より質の高い観光政策の構築を図り「また来たい釧路という異国」「みんなが担う、みんなが育てる観光のまち・釧路」「観光によって幅広い産業が元気になるまち・釧路」をそれぞれ観光客、地域住民、事業者へのメッセージとして目標年次を平成 29 年からおおむね 10 年、目標数値を経済波及効果基準年次（平成 21 年の 254 億円）の 2 倍とし、3 つの分野と 9 つの戦略、40 の施策を打ち出した。

中でも、観光産業育成分野では「MICE 産業強化戦略」—多くの人を呼び込み、幅広く効果を生み出すために—に力を入れ、観光まちづくり分野では「広域連携強化戦略」—世界も見据えた広域的な視点で釧路市の魅力を最大限に活かすために—を計画的にまず東北海道広域連携、引き続き北海道全体での広域連携を図って行き、観光インフラ構築分野では「観光インフラ整備・拡充戦略」—世界に通用する、快適な観光インフラを整備していくために—陸・海・空の交通インフラ&ネットワーク整備とユニバーサル&ストレスフリー環境整備などを押し進めていく。

今後の課題としては、大自然が大きな観光の「めだま」であることは変わらないので、今後の温暖化、天候環境の変化等に注意を払いつつ自然保護に努めなければならない。また、広大な土地、雪国であるがゆえに、道路の痛みが激しく整備が追い付いていないのが現状である。特に最近、外国客の自転車での観光が流行っており、交通事故防止のためにも早期の自転車専用車線等の整備が急務である。

### 【所感】

大自然やおいしい海の幸等、「うらやましい」の発言に、瀬戸内の温暖な気候、うどんという世界に認識されているフード、コンパクトに巡れる 88 か所遍路道等、四国、香川県の方がいろいろな可能性をわれわれは感じていて、うらやましいと言われ目からうろこであった。確かに冬は自転車、車でも観光巡りは難しく、別のスキー客になる。すべてが自然、天候任せのところがある。とこ

ろが香川では1年中同じ観光をPRできる。われわれはもっと地元の強みを認識し、他市とも連携をはかりPRに努めればまだまだ観光は伸びる可能性を再認識させてくれた研修であった。